

第 IV 章

指導事例

1 題材名「おおきくなったよろこび」(誕生会)

2 題材について

幼稚園・認定こども園では月に一度、誕生月の幼児の保護者を招くなどして「誕生会」を行っている。誕生月を迎えた子どもが、保護者や友達、教師などいろいろな人に自分の誕生を祝ってもらうことで、大きくなった喜びや掛け替えのない自分を感じることができるようにしている。また、友達の誕生を祝うことで、友達も自分と同じように掛け替えのない存在であることに気付くことができるようにしている。

3 目標

自分の誕生をいろいろな人に祝ってもらうことで、大きくなった嬉しさを味わい、周りの人から大切にされていることに気付くことができるようにする。

4 活動の流れ

〈誕生会の流れ (ホール)〉

- ①誕生月の幼児が入場、ステージの椅子に座る。
- ②誕生会の歌を歌う。
- ③誕生月の幼児にインタビューをする。
(例：名前とクラス、3歳児～好きな食べ物
4歳児～大きくなったらなりたいもの
5歳児～6歳になって頑張りたいこと など)
- ④誕生カードをもらう。
(園長の話、学級の催しなど)
- ⑤お楽しみの催しをする。
- ⑥各保育室に戻り、学級ごとにお祝いをする。

「6歳になって頑張りたいことは、逆上がりです」

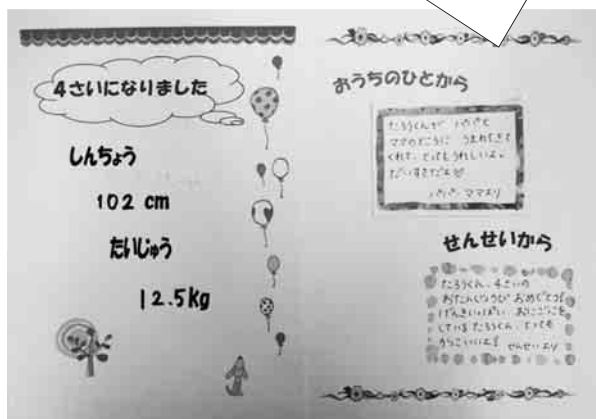
「お誕生日おめでとう！」



〈誕生カード〉




誕生会の中で家族からのメッセージを紹介し、家族の愛情を感じることができるようにする。

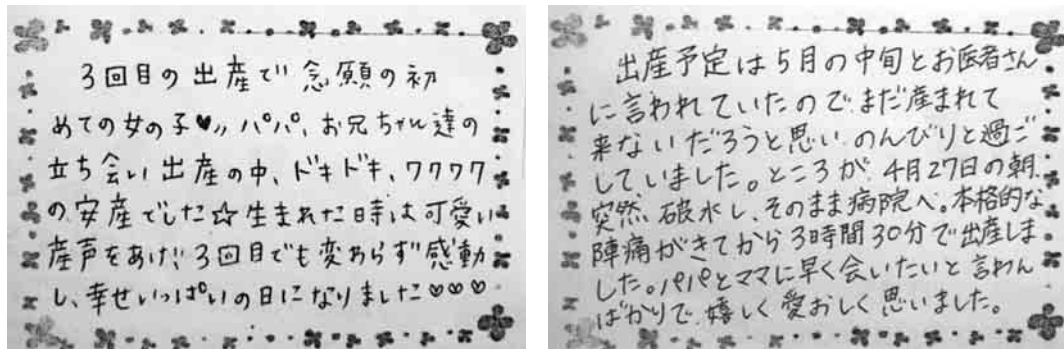


〈各学級でのお祝い活動例〉


【3歳児】

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から愛されていることを感じてほしい。 	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 誕生月の幼児の保護者へインタビューをする。 4歳になった我が子のかわいいところや大好きなところを話してもらう。 保護者に我が子を抱きしめてもらう。 「おめでとう」「大好きだよ」の気持ちを直接伝えてもらう。 	

【4歳児】

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人にかわいがられて育ってきたことを感じてほしい。 保護者にとっては叱ってしまうことも多くなる年頃だが、「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちを思い出してほしい。 	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 誕生月の幼児の保護者にインタビューをする。 どのような赤ちゃんだったかを話してもらう。 誕生月の幼児の保護者に、我が子が生まれた時のエピソードを書いてもらい、毎月発行する学級便りで紹介する。 	

【5歳児】

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の誕生を家族が楽しみに待っていたこと、名前にも願いが込められていることを知ってほしい。 	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 誕生児の保護者にインタビューをする。 漢字で書いた名前を幼児に見せ、漢字の意味や、名前に込められた願いを話してもらう。 	

〈留意点〉

*園と家庭で共に幼児を育てていくことを意識できるように、保護者に園の願いや意図を伝えた上で協力をお願いします。

1 題材名「からだクイズ わかるかな？」

2 題材について

「自分の体を大切にしたい」という気持ちを育てるためには、自分の体について知ることが大切である。健康診断に合わせて体への関心をもたせるような言葉掛けや指導を行うこともその一つである。また、けがなどで保健室を来室したときなどにも、「けがをしたのはどこかな？」と自分の体の部位を意識できるようにしたり、「ここは「すね」だよ」など部位の名前も伝えていくようにしたりしている。このように日常生活の中で体の名前を知らせていくとともに、学級全体の指導でも楽しく学んでほしいと願い、体の各部位の名前をクイズ形式で伝える本題材を設定した。

3 目標

- ・体の部位には一つ一つ名前があり、どれも大切にしなければならないことを知ることができるようにする。
- ・自分の体には大切なものがたくさんあることに気づき、自分が掛け替えのない存在であることを感じることができるようにする。

4 教科、領域などとの内容的関連

幼稚園教育要領 領域「健康」

内容(9)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

5 指導展開例

□：ねらい・課題

■：学習内容

⋯：発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>みんなの体にはいろいろな名前がありますが、知っているかな？</p>	<p>○からだクイズ（スライド）を見せ、期待を高める。【資料1】</p>
展開	<p>からだクイズに答える。</p> <p>（頭の部分を指している矢印を表示して） ここはなんという名前かな？</p> <p>知っていることを答えようとする。</p> <p>ここは、「頭」だね。頭の中には、「脳」というとても大切なものが入っています。だから、ぶついたり、たたいたりしないように気を付けましょう。（以下他の部位も同様に）</p>	<p>○スライドに合わせて、各部位の名前をクイズで確認していく。</p> <div data-bbox="831 1697 1177 1951" data-label="Image"> </div> <p>○頭の仕組みや働きについて簡単に説明する。（他の部位も同様に説明する。）</p>


展開	首、手、胸、腹、腰、背中、臀部、足 など 知っていることを答えようとする。	○首から足にかけても同様に、矢印が示した部分について質問し、仕組みや働きについて簡単に説明する。
	体には、たくさん名前があって大切な働きをしているんだ。	
まとめ	名前が付いている部位一つ一つに、大切な働きがある＝「大切なもの」	○名前の付いている部位はどこも大切なものであり、自分の体は大切なものが集まってできていることに気付かせる。
	「自分の体を大切にしよう」と約束する。 「大切なものの集まりである自分の体」＝「掛け替えのない自分」	○「自分の体を大切にしよう」と伝える。 ◆体の名前や簡単な働きを知ること、自分の体が大切なものばかりでできている、掛け替えのない存在であると感じているか。
ぼくの（私の）体は、大切なものばかりなんだ。		

6 資料

【資料1】スライド「からだクイズ わかるかな？」


1

からだクイズ、わかるかな？




2

みんなのからだにはひとつひとつなまえがあります




3

あたま
め
はな
あご
おでこ
みみ
ほほ
くち



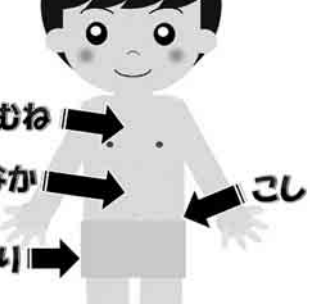
4

てのひら
くび
うで
ゆび
てのこう
かた
ひじ
てくび



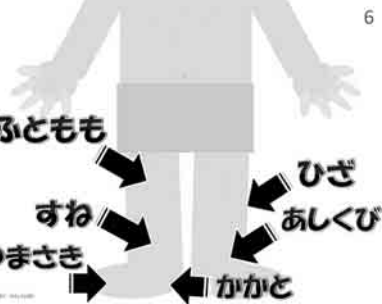
5

むね
おなか
おしり
こし



6

ふともも
すね
つまさき
ひざ
あしくび
かかと




7

からだのなまえがたくさんありましたね。そのひとつひとつにたいせつなはたらきがあります。みんなのからだはその「たいせつなもの」ばかりでできているのです。

8

「たいせつなもの」ばかりでできているみんなの「からだ」。たいせつにまもっていきましょう。



1 題材名「いのちはいくつ？」

2 題材について

この「いのちはいくつ？」の保健指導は、おたまじゃくしと子どもとのエピソードから生まれたものである。「死んでしまったおたまじゃくしをどうするべきか」、という話し合いの中で「捨てればいい」と答えた幼児がいた。この「おたまじゃくしの死」を「命の指導」の機会として捉え、オリジナル絵本「いのちはいくつ？」を作成し、本題材を設定した。

絵本では「死んでしまったおたまじゃくし」は、もう「カエルにはなれない」という事実を伝えている。「死」ということを初めて実感する幼児も多い。「生」や「死」について、まだ曖昧な理解である幼児期には、このように命について考えるきっかけが必要だと考える。

この保健指導では、「人間の命も、虫の命も、動物の命もみな一つずつであり、掛け替えのないものなのだ」ということを伝えたい。そして、その大切な命を守っていける人間であってほしいということ、自分の命を大切にするのはもちろん、周りの人間や動物の命も大切にしてほしいということも伝えたい。また、そのように「自分の命も周りの人から守られている、掛け替えのないものなのだ」という「自己肯定感」にもつなげたい。

3 目標

- ・自分の命も身近な生き物の命も大切なものであることに気付く。


4 教科、領域などとの内容的関連

幼稚園教育要領 領域「環境」

内容(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわりあったり、大切にしたりする。

5 指導展開例

□:ねらい・課題 ▒:学習内容 ▭:発問・指示など


	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>みんなのまわりには、どんな「命」がいるかな？</p> <p>学級で飼っている生き物や虫捕りについて答えたり、様子を伝えたりしようとする。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫を捕まえたよ ・おたまじゃくしを飼っているよ 	<p>○学級で飼っている飼育物の様子を想起させる。</p> <p>○捕まえた昆虫やおたまじゃくしなどを話題に取り上げる。</p>
展開	<p>「命」とは、なんだろう？</p> <p>「命」とはなんだろう、「死」とはどういうことだろう、と考える。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き返らんじゃないの？ ・おたまじゃくしはたくさんいるから、大丈夫？ ・カエルになれなくてかわいそう ・命は一つしかない大切なものだ ・生き返ることはできないんだ ・命がなくなったら、死んでしまうんだね <p>◆みんなが必ず一つだけもっている「命」</p> <p>◆もし死んでしまうと、もう生き返ることはできない</p> <p>◆死ぬ、ということは「命がなくなる」ということ</p> <p>◆命がなくなるということは、とても「悲しいこと」</p>	<p>○紙芝居「いのちはいくつ？」を読み聞かせる。 【資料1】</p>  <p>○身近な飼育物の命について取り上げることで、命の始まりや終わりについて実感させる。</p> <p>◆小さな生き物の命を大切にしようという気持ちをもっているか。</p>
まとめ	<p>「命を大切にする」とは、どういうことなのかな？</p> <p>「命がなくなるのは悲しい」と実感する。</p> <p>〈「命」を大切にするための2つの約束〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命や体を守ること ・自分だけでなく、まわりの人や動物、昆虫など、全ての命を守ること <p>「命を大切にするための約束」を知る。</p> <p>命を大切にしよう</p>	<p>○絵本の感想を聞きながら、「命の大切さ」について、再確認する。</p> <p>○掛け替えのない「命」を守るための約束を確認する。</p> <p>◆自分たちの命も守られてきた掛け替えのない命だということに気付いているか。</p>

6 資料

【資料1】紙芝居「いのちはいくつ？」


<p>いのちはいくつ？ 1</p>  <p>みんなが かならず ひとつだけ もっているもの。</p>	<p>2</p>  <p>それは いのち。</p>
<p>いのちは めにみえないけど 3</p>  <p>でも なにより たいせつなもの。</p>	<p>4</p> <p>いのちは...</p>  <p>にんげんにも ひとつ</p>
<p>5</p> <p>ありにも ひとつ</p>  <p>みんなが もっている いのち...</p>	<p>6</p> <p>もちろん おたまじゃくしにも ひとつ</p>  <p>みんなが もっている いのち...</p>
<p>7</p> <p>おたまじゃくしは たくさんいるから</p>  <p>いのちが ひとつくらい なくなってもいい？</p>	<p>8</p> <p>おたまじゃくしは しんでしまったら...</p>  <p>もう かえるには なれない。</p>
<p>9</p> <p>おたまじゃくしは たくさんいるけれど</p>  <p>1びき、1びきには ひとつずつのいのちしかない。</p>	<p>10</p> <p>だから、そのおたまじゃくしは</p>  <p>かえるにはなれない。</p>

11
 どんなにかえるにいたかったとしても
 かえるにはなれない。



しんでしまうということは ということ。

12
 しんでしまうということは、



いのちがなくなるとのこと。

13
 いのちをなくしたら
 いのちがなくなったら
 つらくて、さびしくて、くるしくて、



がまんできないくらい かなしいきもちになる。

14
 だから



いのちを たいせつにしてほしい。

15
 いのちをたいせつにするということは、
 じぶんのいのちをまもるとのこと。

まわりのひとのいのちも
 まもる ということ。

16
 そして、たいせつなのは



にんげんのいのち だけじゃない。

17
 あいのいのちだって たいせつ。




おたまじゃくしのいのちだってたいせつ。

ぜんぶのいのちを たいせつにしてほしい。

18
 たったひとつの たいせつないのちを



ずっとたいせつにできるひとでいてください。